

令和5年度 第2回 双葉小学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和5年6月22日（木）14時30分から16時00分
2. 開催場所 双葉小学校 会議室
3. 出席委員 河邊 忠一、平岡 廣二、加藤 泰弘、伊東 敏郎、水野 久美子
大羽 恵子、菱 悦子、木村 理、伊藤 篤志、
4. 欠席委員 富田 秀仁
5. 学 校 藤井 隆志（校長）、滝川 宏美（教頭）、浅井 功平（教務主任）
加美 美紀（CSディレクター）
6. 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
7. 傍聴者 なし
8. 会議録作成者 CSディレクター 加美 美紀
9. 議長の選出
司会の教頭から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、加藤委員を推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員意義なくこれを承認した。

10. 協議事項

- （1）いじめ防止等のための取組報告について
- （2）キッズチャレンジビジネスの方向性と調整について
- （3）教育方針具現のためのその他の活動について

11. 会議記録

司会から、委員総数10人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）いじめ防止等のための取組報告について

議長の指示により、校長よりいじめ等の件数の報告があった。いじめについては、全職員で見守りながら取り組み、タブレットを利用してアンケートを行う予定であると説明があった。

（2）キッズチャレンジの方向性と調整について

校長より、別紙に基づきキッズチャレンジビジネスの方向性と調整について説明があった。初めに、キッズチャレンジビジネスの歴史について、その後、このキッズチャレンジビジネスを、子どもたちにとって6年間かけて学びのある活動として展開していく方針であると説明があった。また、主活動とする販売活動に向けて、5年生から学びをスタートし、6年生は年間計画に基づき作業を進めること、今年度は昨年よりも計画を前倒しして行い、委員の方にサポートしていただきながら再構築していきたいとの報告があった。委員からは、以下の発言があった。

- 別紙の「令和5年度 キッズチャレンジビジネスに向けての年間計画表」を参考にしながら、委員活動を進めていきたい。(加藤委員)
- 販売商品の手ぬぐいは、サイズを変えるなどして毎年買い替えたいようなデザインにしてはどうだろうか。(大羽委員)
- キッズチャレンジビジネスを今後も継続していくために、5年の段階からこの活動に取り組んでいくことはとても良いことだと思う。(平岡委員)
- キッズチャレンジビジネスが終了し、取り組み後の振り返りの報告はどのような形で行っているのだろうか。(河邊委員)
- 「成果」と「課題」、「検討事項及び修正案・改善案」としてまとめ、対面形式で報告する予定にしている。(校長)

(3) 教育方針具現のためのその他の活動について

- ふたばっ子チャレンジタイムについては、小規模校の良さが光り、子供たちのがんばりを垣間見ることができて良かった。子供たちのふりかえりカードもしっかり書けていると感じた。保護者の感想は、改善点について触れられておらず、どのような感想をもっているのか気になった。(伊東委員)
- 保護者へのアンケートは「輝いていた姿、頑張っていた姿」を中心にして聞いているため、このような結果になったと思われる。保護者から、半日から1日開催にしてはどうだろうかなどの声が聞かれた。(校長)
- ふたばっ子チャレンジタイムも本日の参観会も、保護者の方々がたくさん見いらしており、コロナ前の状態に戻りつつあることを実感した。ふたばっ子チャレンジタイムでは、子供同士がしっかりと声を掛け合っている姿を見て、この3年程、出来なかったことがやっとできるようになってよかったと思う。(水野委員)
- お天気ははっきりしない中、ふたばっ子チャレンジでも参観会でも、子供たちが落ち着いて活動しており、その姿が印象的だった。(大羽委員)
- ふたばっ子チャレンジタイムでは、子どもたちはいきいきとしていて「がんばれ！」と応援する姿が見られた。全学年の種目を全校で見た、共有できたというチャレンジタイムの成功後の参観会だからこそ、子どもたちは今日も学校に楽しく来ることができたのだろうと思った。(簗委員)
- キッズチャレンジビジネスについては、今後も同じ業者の方にお問い合わせすることが難しくなるかもしれないので、さまざまな地域の方に声掛けすることも良いのではない。(伊藤委員)
- ふたばっ子チャレンジタイムは、6年生のリーダーシップが感じられた。また、各学年の僥倖種目も工夫が凝らしてあり、盛り上がっていたと思う。キッズチャレンジビジネスについては、CM方法を工夫してはどうだろうか。例えば、町探検に行く時に

子どもたちがチラシを持参し、置いてもらえるかどうか聞いてみるなど。(木村委員)

- ふたばっ子チャレンジタイムについては、子どもたちの仲が良い様子が分かるのも良いが、その中でも競争心をかきたてる種目があると良いと思う。勝敗がついた後の対処がきちんとされていれば、そういったことも大丈夫だと思う。(平岡委員)
- ふたばっ子チャレンジタイムについては、数種目だけでも点数で競い合うものがあったても良いのかもしれない。今日の参観会は一生懸命取り組む子どもたちの姿が見られた。(河邊委員)

その他報告事項等

叢委員より「南部 夏休みこども食堂」についての案内があった。子どもの居場所づくりに気軽に利用してほしいとの連絡があった。

司会から、次回会議は、令和5年12月7日(木)キッズチャレンジビジネス参観後に開催する旨の報告があった。校長から、委員の方には子どもたちの積み重ねを見ていただくために、学校にはいつでも足を運んでくださいとの連絡があった。